



“お産”から学ぶ「牛のための酪農」

石井塾デイリーサマーキャンプ

㈱石井獣医サポートサービス(北海道新得町)の石井三都夫獣医師は8月18～24日、「石井塾デイリーサマーキャンプ」を開催した。「牛のお産」をテーマに調査・研究を重ねている石井獣医師が、未来の酪農業界を担う若い世代に分娩管理の技術や知識や考え方を伝えるべく開催している同キャンプは今年で11回目。受講生は酪農業界での活躍を志す学生(小学生～大学生)、酪農業界で活躍している社会人、生産者など延べ59名で、1週間にわたり分娩管理の実践を通じて学びを深めた。

現場で活躍できる人材を育てる

同キャンプは11年前、獣医学生限定開催から始まり、その後社会人や獣医学生以外の大学生や中高生、小学生までが参加するようになった。石井獣医師のこれまでの経験から「理論のみならず現場で多くの経験を積み、牛と関わって働くことの厳しさや面白さをありありと伝える」ことを目的とし、受講生は分娩徴候の見極めから、実際に分娩に立ち会い、ときに介助をして大切なポイン

トを体験する、というもの。会場は同町の(有)友夢牧場で、開催期間中のお産はすべて受講生が管理するというプログラムだ。

具体的な実習内容は、分娩予定日の近い牛の特徴を理解し、実際に牛を見ながら判断しチェックする。期間中はランダムなチームごとに牛の様子を見守り、破水が確認されたら全員が集まり分娩を見守る。生まれた子牛を清潔に安全に哺育舎に届けるところまでを行なう。

現在の現場改善のヒントに

受講生の1人、大分県の畜産研究員を務める三村純一郎獣医師は、これまで行なっていた分娩管理を今一度見直し、最新の知見に基づいたノウハウを学ぶべく参加した。「今までは考えていなかった管理や視点を学ぶことができた。県の酪農の技術普及に活かしたい」と大満足。

近隣の土士幌町で酪農経営をする㈱サンクローバーからも、数日にわたって複数名が参加した。代表の佐々木守さんは「セミナーで得た情報を特定の1～2人が持ち



▲来年度から飼料会社への就職が内定しているので、事前に生産現場を肌で感じる事ができて有意義でした。これまでの大学での勉強を超える実体験ができました(花田有菜さん)



▲将来は実家の牧場を継承するつもりなので受講しました。分娩に関しても経験は多々ありましたが、新たな学びや気づきがあり、牛のためにやるべきことなどを今一度知れて、貴重な経験になりました(鳥淵永治さん)



▲大学の卒論研究の採材も兼ねて、3年ぶりに参加しました。再度受講したことでより深いところでの新たな発見や学びが多くありました。成長を実感できる場となりました(瀬尾まひなさん)